

# ほうこん

題字・清水英夫

GALAC・12月号・付録  
2011年12月6日発行(毎月1回6日発行)  
昭和43年3月8日第三種郵便物許可  
〒160-0022  
東京都新宿区新宿5-10-14 中村ビル2F  
NPO法人放送批評懇談会  
TEL (03)5379-5521/FAX (03)5379-5510  
ホームページ <http://www.houkon.jp/>  
Eメール [kondankai@houkon.jp](mailto:kondankai@houkon.jp)  
編集・橋本 隆

2011年10月24日、10月理事  
会が開催された。

1 委員会活動報告

◇出版事業委員会 飯田副編集長  
・12月号校了。表紙は、中村蒼さ  
ん、ザ・パワースンが、小山薫堂さ  
ん。特集は「韓流の実力度」。特集  
とは別に東海テレビの「セシウム  
さん事件」の検証番組と報告書に  
関しての批判記事を掲載した。

・1月号は、「第49回上期ギャラ  
クシー賞発表」号。加えて特集「時  
代劇はどこに行く」。

・2月号は特集として、テレビの  
番組情報を視聴者はどこから得て  
いるのかを探りたい。仮題として  
「番組情報最前線」。

・前回理事会で報告したように、  
今月からgoo(NTTレゾナン  
ト)にGALACの記事を配信し

ている。そこに「マイベストTV  
賞」記事も載せている。

配信した途端に韓国の人気司会  
者引退に関する「海外メディア最  
新事情」の記事が2日間にわたっ  
てアクセス数ナンバーワンを取っ  
た。びっくりし嬉しい事であった。

◇選奨事業委員会 小田桐委員長  
(テレビ委員会) 川喜田副委員長  
・テレビ部門のギャラクシー賞上  
期応募作品数は129本。昨年上  
期より9本増。10月30日(日)に  
9月の月間賞の選考をした後、上  
期の選考をする予定。

〈ラジオ委員会〉 桜井委員長  
・ラジオ部門の応募数は、39本。  
昨年上期より8本増。特徴として  
は、生ワイド部門の応募が増えた。  
選考は10月27日に、ドラマ部門、  
報道・ドキュメンタリー部門を、

31日にワイド部門、音楽・エンタ  
テインメント部門を行う予定。

・10月月例会は10月17日に合評会  
を開催した。ラジオが元気との評  
判の沖縄の番組「団塊花盛り」(琉  
球放送)を取り上げた。

・10月2日に、第14回「入賞作品  
を聴いて、制作者と語り合う会」  
を日大芸術学部で開催した。今回  
は会費無料とし、多くの学生の参  
加を期待した。日大ばかりでなく、  
立教など学生間の情報交換で多く  
の学生の参加を得たことは収穫と  
思う。懇親会も開き、質疑応答も  
盛り上がった。只、会費を取らな  
かったため、委員の寄付でも費用  
が不足する結果となった。放懇に  
負担をお願いしたい。

・前回の「聴く会」で、大賞受賞  
作品「インターが聴こえない」白  
鳥事件60年目の真実」(HBC制  
作)を聴いて語り合ったが、その  
成功が刺激となり、北海道と同じ  
ようにこの作品を聴いて語り合う  
会を開催しようという計画が立ち  
上がり現在準備中。聴く会に来て  
くださったHBCの後藤篤志さん  
が我々の活動に感激してそれを地

## 公開シンポジウム 〈ギャラクシー賞受賞「報道活動」を見て、 制作者と語る会〉開催!

- 日時 2011年11月19日(土) 13:00~17:00 (開場 12:30)
- 場所 上智大学 9号館 249教室
- 主催 放送批評懇談会ギャラクシー賞報道活動部門委員会
- 共催 上智大学文学部新聞学科 ●参加自由/申込不要(資料費 500円)

ギャラクシー賞「報道活動部門」とは、番組枠を超えたキャンペーン報道、複数局による報道、単体の番組では完結しないスクープ報道活動などを審査の対象としています。

日本を代表するこれらの報道活動は、全国各地で長期間にわたって放送されたものですが、放送エリア外では、視聴する機会がほとんどありません。これらを一挙に上映することは、テレビ報道を考えるうえで欠かせないと思います。

また、報道活動に携わった放送局の担当者を引き、その活動を評価した選奨委員、報道活動に関心を寄せる視聴者・研究者などが一堂に会して、報道について議論することは、報道の現状や課題を明らかにし、日本の放送にとって大きな意義があると考えております。ぜひ、ご参加ください。

### 上映作品 & 参加放送局:

- <大賞> 札幌テレビ放送「がん患者、お金との闘い」2007年~2011年一連の報道
- <優秀賞> 宮崎放送 口蹄疫発生から終息宣言までの一連報道
- <優秀賞> 琉球朝日放送 ステーションQ年間企画「オキナワ1945島は戦場だった」
- <選奨> テレビ金沢 壁画修復から見つめた幻の画家アーニョロ・ガッディにおける一連の放送活動
- <選奨> 東海テレビ放送 報道キャンペーン「堀川のキセキ~人・街・川」
- <選奨> 日本放送協会 NHK「北方領土プロジェクト」

### <会場へのアクセス>

■最寄駅 JR中央線、東京メトロ丸ノ内線・南北線四ツ谷駅 ■麴町口・赤坂口から徒歩5分

### <問い合わせ>

■放送批評懇談会 03-5379-5521 (平日10時~13時/14時~18時)

## 第31回「地方の時代」映像祭2011開催!

第31回「地方の時代」映像祭は、3月の東日本大震災を受け、「支え合う!地域力」をサブテーマに掲げました。11月19日(土)~25日(金)、関西大学千里山キャンパスで開催する今年の大会でも、大震災からの復興を目指すシンポジウムや上映会を開催します。また、11月26日(土)には「グランプリ作品東京上映会」(関西大学東京センター)、12月3日(土)には、仙台で震災報道をテーマにしたシンポジウムを行ないます。

### <大会スケジュール>

- 11月19日(土)~11月25日(金)  
贈賞式、記念講演、受賞作上映 <会場> 大阪・関西大学千里山キャンパス
- 11月26日(土) 14時~17時30分  
グランプリ受賞作品を語る会 <会場> 東京・関西大学東京センター(JR東京駅 日本橋口改札すぐ)
- 12月3日(土) 14時~18時  
上映とシンポジウム「被災地のメディアとして」 <会場> 仙台放送上杉ホール

詳しくは、「地方の時代」映像祭ホームページをご覧ください。<http://regionalism.jp/>

元でも是非やりたいたと考えた。こんな風に聴いて語り合う会が全国に広がったら嬉しい限り。改めて結果を報告する。

〈CM委員会〉 五井委員長

・CM部門は、応募数は120本であった。激減するのではと懸念していたが、2本減であった。特徴としては、シリーズものがすごく増加したこと。

・CM部門は、全作品をDVDに収録して配布し、事前に全委員の評価内容を送ってもらい、事務局でデータ整理を済ませて審議に入るシステムにしている。審査時間をたっぷり取って十分に議論したい。

・注目点は、震災直後のCMも多数応募されていた。例えばサントリーの「上を向いて歩こう篇」等。こういった作品を今観てどう感じるか、皆ときちんと議論し検証してみたい。

〈報道活動委員会〉 碓井委員長

・ギャラクシー賞の選考会は、先週22日に終了した。今回の応募数は6本であった。毎回上期は少ない傾向があるが昨年より3本減った。

・委員会でも、応募本数が少ない点に関して大きな課題として問題にな

った。質と量の両面から考えなくてはいけないと深い議論をした。

その結果、下期に向けて、「応募していただくに際し、報道活動部門とはどういう部門なのか、何を目標しているのか」等々、GALAC誌などできちんと伝えていきたいと確認した。更に、11人の委員がネットワークを使いながらそれぞれが掘り起こしをして行く活動をより積極的進めようとした。

・「報道活動を見て、制作者と語る会」を開催する。大賞他受賞全作品を見る。制作者も全員集まってくる予定。是非告知への協力と皆さんのご参加をお願いする。(4ページ参照)

以上報告に関し、専務理事より発言。

・ラジオ委員会の費用支出の件。「聴く会」開催はご苦勞様。費用に関しては他の委員会の活動内容などと調整し、同等の対応をしたいので預かりとし、処置は一任願いたい。↓了承。

・前回理事会で「聴く会」開催時に参加者に放懇への入会案内を積極的にして欲しいとお願いした。早速実

◇マイベストTV賞プロジェクト  
滝野プロジェクトリーダー

・先程、goo配信記事に対するアクセス数が多かったとの報告があったが、マイベストTVへのアクセスも2日連続で2位という日があった。テレビ番組情報へのニーズはあるのだと思った。しかし、Web会員入会希望者の増加にはつながらないようなので、更なる展開を考えたい。

## 2 その他

①入会 中島事務局長

・正会員 村上雅通氏

石塚一真氏

②データベースの件 川喜田理事

・プラットフォームと交渉してきた。その結果、初期費用及びメンテナンス費用に関しても理事会で了承されていた費用を超えない金額で両者合意に達した。12年度から設計に入り、13年度に運用する。

・維持会員に加入して頂くよう説得中。↓費用等含めて全員一致で了承。

③J・VIG日本映像事業協会「ヤング映像クリエイターを励ます賞」後援会名義の件

・専務理事より、内容説明及び今までの経緯を説明。↓了承。

④スパイダーの現状の説明 福島事務局長

・大震災報道番組の資料保存作業の現状と8月からの作業内容の変更に關しての説明があった。

⑤「日韓中テレビ制作者フォーラム」JKA提出の自己評価について 専務理事

・当会が名義人となって申請し資金提供を得た右記イベントが終了したが、提供者JKAに対して、自己評価書を提出する義務がある。これは、同イベントに参加した者しか判断できないので、格別のご異論が無ければ、参加者で協議して作成し提出したい。一任頂きたい。↓了承。

⑥トロフィーの件 専務理事

・大変申し訳ないが、進展が無く報告事項がない。制作に関する諸問題がネックになっている。ただ約8か月の間進展無しという状況を考えてと決心が必要な時期が来ていると思う。後1か月待って欲しい。↓了承。

⑦ソニー生命の件 専務理事

・7月理事会に提案した「ソニー生命」を使つての資金運用に関し、様々な取材をし、河野会計士の意見なども聞いた結果、不適當との結論

施していただいたところ、1名入会申請があった。大変喜ばしい事である。ラジオ委員会ありがとうございました。報道活動委員会もよろしく。〈ギャラクシー賞検討小委員会〉小田桐委員長

・理事会開催前に、第2回の小委員会を開催した。

議題1. ギャラクシー賞の理念と評価基準↓小田桐私案に様々な意見が出されたので、それらを参考にし

て改めて提出する。

議題2. 現行4部門制の是非。↓維持する。

議題3. 選奨事業委員長の役割、責任。↓若干時間足らずで次回に。

次回は、11月28日に開催予定。

・専務理事より、小委員会メンバーに、マイベストTV賞プロジェクトリーダーの滝野理事を加えたいとの要請があった。↓了承。

◇企画事業委員会 中島事務局長

・前回、来年のシンポジウムの日程を報告したが、事情により変更する。新しい日程は、2月28日(火)、会場は変更なく都市センターホテル。

また、メイン講演者に元岩手県知事増田寛也氏が決定。

に達した。撤回させていただきたい。原点到り帰って検討したい。↓全員一致で了承。

◇次回以降の理事会

11月28日(月)

12月21日(水)

【出席】音好宏、橋本隆、小田桐誠、桜井聖子、五井千鶴子、碓井広義、滝野俊一、飯田みか、川喜田尚、河野尚行、嶋田親一、稗田政憲、中島好登

## 会議記録

【10月】

3日 企画事業委員会

7日 50周年記念出版編集委員

17日 (選奨) ラジオ定例会

20日 出版編集委員会

22日 (選奨) 報道活動選考会

24日 ギャラクシー賞検討小委員会

25日 (選奨) CM選考会

27日 (選奨) ラジオ「下ラマ・ドキュメンタリー」選考会

30日 (選奨) テレビ月評会

(選奨) テレビ選考会

31日 (選奨) ラジオ「音楽&エンタテインメント」選考会